

令和元年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成		
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成		
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成		
2 今年度の重点目標	1 個に応じたキャリア教育の推進	4 心身の健康増進と安心・安全教育の充実	
	2 授業の充実による学力の育成	5 特別支援教育の推進	
	3 生徒指導の充実による生徒の社会力の向上	6 魅力・活力あふれ開かれた学校づくり	
3 昨年度の成果と課題	1 平成29年度まで文部科学省の委託事業として行ってきた「多様な学習を支援する高等学校の推進事業」を活用し、キャリア教育の充実と発展を図る。		
	2 本校生徒の対応した「探究型学習」をさらに発展させるとともに、ユニバーサルデザインの授業展開を充実させる。		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった							
領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	学校説明会時に本校の特徴を理解してもらうとともに、今年度から本校で行っている通級指導教室の内容に関し、学校評議員の方々の疑問を踏まえた内容で中学校や保護者に広く伝えた。 校内倫理委員会において、最近の教員による不祥事案を振り返り、教員に求められる倫理観の向上を図った。	本県の通級指導教室の充実を図るとともに、県民に本校教育の特徴を発信する機会を増やす。そのために、HPや学校説明会をより充実したものになるよう努める。また、学校評議員の方々からのご意見を踏まえ、より一層生徒に寄り添った指導ができるよう教員の研修に努める。	B	○教員の不祥事は生徒のみならず、社会への影響が甚大です。対策の徹底を望みます。 ○霞城学園高校の基本となる学習形態の徹底。特に通信制課程における自己管理の重要性を入学時に資料配付などを行い、情報提供することができないでしょうか。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通した学習意欲の喚起	B	基礎学力定着をテーマとした研究授業や年2回の授業評価を実施し、授業改善に努めた。シラバスを活用して教科ガイダンスや個人面談等を実施し、生徒一人ひとりの学習意欲喚起に努めた。	新教育課程の内容理解を深め、移行に向けて準備を進める。また、次年度より生徒全員が総合的な探究の時間に取り組めるように計画を作成する。生徒個々の目標・進路に応じた履修登録を進め、生徒の単位修得率向上と学習意欲の更なる高揚に努める。	B	○個人差のある難しい指導内容だと理解しているつもりです。本人の希望が叶うよう今後ともよろしくをお願いします。 ○「探究」の押しつけにならないよう工夫した指導をお願いしたい。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実 ・いじめ防止の取組の充実	・HR活動や行事を通した自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・生徒間での豊かな関係性が保てる指導	B	震災祭等の生徒会行事への積極的な取り組みにより自己有用感の醸成を図った。地域貢献活動(清掃)や植樹プロジェクトのボランティア活動を実施し、社会性の育成に取り組んだ。2度のアンケート調査により、いじめの把握と面談等による指導により早期対応に努めた。	新入生の高校生活における初期指導を、これまで同様に細やかに丁寧に行う。日々のHR活動や生徒会の諸活動を通して、人との関わり方や社会生活の営み方を身につけさせる指導を続ける。	B	○多様な背景を持った生徒が集まることで、他校よりは同調圧力がかかりづらいのは貴校のよいところ。 ○根気と丁寧な指導を求められる貴校において、担当される先生方のご苦労ぶりが感じられます。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・生徒の多様な進路目標への対応 ・卒業予定者の進路決定率の向上	B	就職内定率76.9%（昨年度97.0%）と厳しい状況である。就職希望者は年々増加している。複数受験で現在も前向きに頑張っている生徒が目立つ。進学を含めた進路決定率は79.5%である。（昨年度86.0%）	県の事業が昨年度で終了し、今年度は本校PTAの事業で外部講師によるキャリアカウンセリング等を継続することができた。また、今年度は進路行事に積極的に向かえない生徒がいたことから、担任を通し丁寧に指導していく。	B	○進路未決定者や決定者であっても大きな不安を抱えている生徒の卒業後の支援策に期待します。 ○今後もキャリア教育の充実が必要だと思います。
健康安全指導	・保健衛生安全管理指導の充実 ・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの点検 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	A	防災センター・警察との連携を図り防災訓練・不審者対策訓練及び危機管理等研修会を実施した。また、生徒・保護者・教職員を対象とした教育相談等を実施し、メンタルヘルス面の支援充実に努めた。	より迅速な対応を行うため、複合ビル内という特殊な環境に合った不審者対応チャートを作成する。また、精神的に不安定な生徒に対する個別相談及び医療相談機関との連携を継続実施し、指導体制の充実を図る。	A	○危機管理の中にメディアリテラシーの教育に関する内容も必要ではないか。特にスマートフォンの利用による様々な弊害が目立ちます。 ○ビル内という環境で大変だとは思いますが、生徒・教職員の安全対策を進めて欲しい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・HPを利用したの情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	各種通信の発行やHP活用によりタイムリーな情報発信に努めた。生涯学習講座は「PCスキルアップ」「芸術に親しむ」の各講座を開講し充実を図ったが「山形ふるさと探訪」講座の希望者1名であることから、実施しなかった。	各種通信の発行やHP活用による保護者や地域への情報発信を継続実施する。生涯学習講座では生涯学習サポート会員の協力のもと講座のあり方を検討するとともに魅力ある講座の充実を図る。	B	○貴校の特殊性を活かした事業でご苦労も多いかと思います。 ○家庭と県教育界のICT活用でズレが現れ始めているような気がします。他県の例を参考に先駆的な取組みを期待します。
特別支援教育	・特別支援教育の推進	・外部機関との連携と研修の充実 ・個別の支援計画や支援プログラムの作成 ・授業のユニバーサルデザイン化	B	支援が必要な生徒に対して個別の支援チームを組み、情報を共有し組織的に対応した。学校生活での困り感を改善するために、本人及び保護者の同意を得て、通級による指導を行った。ライフスキル講座を引き続き実施した。	職員研修会・生徒理解研修会の実施等を通じ、特別な支援を必要とする生徒への理解を深め、個々のニーズに対応するためのさまざまな知識の習得とスキルの更なる向上を目指す。	B	○特別な支援を必要とする生徒に対応するための情報や研修は大切だと思いますが、100%の対応は不可能です。 ○特別支援の考え方を、是非全体で共有していただきたいと思っています。